令和4年度病虫害発生予察予報第10号（令和5年1月）

令和5年1月5日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(西)</u> 、平年並(中西) <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(西)</u> 平年並(中西) <u>やや多(西)</u> 、並(中西)、少(中央) やや少(中西)、少(中央、西) <u>やや多(西)</u> 、やや少(中西)、少(中央)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> 、少(東、西) 平年並(西)、やや少(東)、少(中央) 少(東、中央、中西) やや少(中央)、少(東、西) <u>やや多(中央、西)</u> 、少(東) <u>やや多(西)</u> 、やや少(東、中央)
促成ピーマン ・シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> 、少(東、中西) <u>多(東、中西)</u> 、平年並(中央) <u>多(東、中西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> <u>やや多(中央、中西)</u> 、やや少(東) <u>やや多(中央)</u> 、平年並(東)、少(中西) <u>やや多(中西)</u> 、やや少(東、中央)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 うどんこ病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>やや多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> 平年並(中央) <u>やや多(中央)</u>

※ () 内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村
県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く) 町村および吾川郡仁淀川町
県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報（高松地方气象台12月29日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞12月31日から1月30日

気圧の谷の影響を受けにくいいため、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、高い確率40%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	30	30	40
		降水量	40	40	20
		日照時間	20	40	40

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	20	50	30
2週目		30	30	40
3～4週目		30	40	30

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：12月31日（土）～1月30日（月）

1週目：12月31日（土）～1月6日（金）

2週目：1月7日（土）～1月13日（金）

3～4週目：1月14日（土）～1月27日（金）

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予 想 発生量：多（中央部）、やや多（西部）、平年並（中西部）

根 拠

(1)12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年より多く、西部でやや多く、中西部で平年並であった。発病程度は中央部、西部で平年より高く、中西部ではやや低かった。

(2)厳寒期の病勢進展は少ないため、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：多（中央部）、やや多（西部）、平年並（中西部）

根 拠

(1)12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年より多く、西部でやや多く、中西部で平年並であった。発病程度は全ての地域で平年並であった。

(2)厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発生が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。薬剤の防除効果は、上位葉への進展状況で判断する。

3) 黄化えそ病

予 想 発生量：やや多（西部）、並（中西部）、少（中央部）

根 拠

(1)12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりやや多く、中西部で平年並、中央部でやや少なかった。発病程度は中央部、中西部で平年並、西部で低かった。

(2)厳寒期であり、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が緩慢なことや、野外から施設内への飛び込みもないので、新たな発生は少ないと考えられる。

対 策

(1)媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋却などにより処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや少（中西部）、少（中央部、西部）

根 拠

(1)12月の調査では、県中西部で平年並、中央部で平年よりやや少ない発生が見られた。発生程度は、中西部は平年並、中央部は平年より低かった。

(2)厳寒期は増殖が緩慢になるため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

(1)気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、野外から施設内への飛び込みもなくなるので、減少傾向で推移すると考えられる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多（西部）、やや少（中西部）、少（中央部）

根 拠

(1)12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年より多く、中西部で平年並、中央部で少なかった。発生程度は西部でやや高く、中西部でやや低く、中央部で低かった。

(2)気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、野外から施設内への飛び込みもなくなるので、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

(1)本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。

(2)本虫は薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：多（中央部）、少（東部、西部）

根 拠

(1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりも多く、東部、西部で少なかった。発病程度は県中央部で平年よりもやや低く、東部、西部で低かった。

(2) 気温の低下にともない病勢の進展が緩慢となることから、発生の増加は少なく、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：平年並（西部）、やや少（東部）、少（中央部）

根 拠

(1) 12月の調査では、県西部で平年並、東部でやや少なく、中央部で少なかった。発病程度は、西部で平年よりやや高く、東部でやや低く、中央部で低かった。

(2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) すすかび病

予 想 発生量：少（東部、中央部、中西部）

根 拠

(1) 12月の調査では、県東部、中央部で発生が見られ、発生面積はいずれの地区も平年より少なかった。発病程度は、いずれの地域も平年より低かった。

(2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや少（中央部）、少（東部、西部）

根 拠

(1) 12月の調査では、県東部、中央部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年並、東部でやや少なかった。発生程度は、中央部は平年より高く、東部でやや低く、西部で低かった。

(2) 厳寒期は増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。
- (2) 天敵類の定着が遅れているほ場では、追加放飼を検討する。

5) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：やや多（中央部、西部）、少（東部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部、西部で平年より多く、東部でやや少なかった。発生程度は中央部、西部で平年より高く、東部で平年並であった。
- (2) 厳寒期は増殖が緩慢になり、野外から施設内への飛び込みもないので、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 薬剤の抵抗性が発達した個体群がいる可能性があるため、防除薬剤の選定に注意する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多（西部）、やや少（東部、中央部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県西部で平年よりも多く、東部と中央部で平年並であった。発生程度は西部で平年よりも高く、東部で平年並、中央部でやや低かった。
- (2) 厳寒期は増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。
- (2) 天敵類の定着が遅れているほ場では、追加放飼を検討する。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：多（中央部）、少（東部、中西部）

根 拠

- (1) 12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部で平年よりも多く、その他の地域は少なかった。発病程度はいずれの地域も平年並であった。
- (2) 厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2) 斑点病

予 想 発生量：多（東部、中西部）、平年並（中央部）

根 拠

(1)12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県東部、西部で平年より多く、中央部では平年並であった。発病程度は、東部、中西部で平年より高く、中央部でやや低かった。

(2)厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

(2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生量：多（東部、中西部）、やや多（中央部）

根 拠

(1)12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県東部、中西部で平年より多く、中央部でやや多かった。発病程度は東部、中西部で平年より高く、中央部で平年並であった。

(2)厳寒期の病勢進展は少ないため、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

(2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多（中央部、中西部）、やや少（東部）

根 拠

(1)12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中央部、中西部で平年より多く、東部で平年並であった。発生程度は東部、中西部で平年より高く、中央部でやや高かった。

(2)厳寒期は増殖が緩慢になることや、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

(2)天敵類の定着が遅れているほ場では、追加放飼を検討する。

5) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：やや多（中央部）、平年並（東部）、少（中西部）

根 拠

(1)12月の調査では、県東部と中央部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりも多く、東部でやや多かった。発生程度は中央部で平年より高く、東部、中西部では低かった。

(2)厳寒期は増殖が緩慢になることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

(1)薬剤の抵抗性が発達した個体群がいる可能性があるため、防除薬剤の選定に注意

する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多（中西部）、やや少（東部、中央部）

根 拠

(1)12月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県中西部で平年よりも多く、東部、中央部では平年並であった。発生程度は中西部で平年並、東部でやや低く、中央部では低かった。

(2)厳寒期は増殖が緩慢になること、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着していることから、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

(1)本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。

(2)天敵類の定着が遅れているほ場では、追加放飼を検討する。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：やや多（中央部）

根 拠

(1)12月の調査では、発生面積は平年よりもやや多く、発病程度は平年よりも低かった。

(2)厳寒期の病勢進展は少ないが、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

(2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

2) すすかび病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

(1)12月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発病程度は平年より高かった。

(2)厳寒期の病勢進展は少ないが、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

(2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) うどんこ病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

(1)12月の調査では、発生面積は平年よりも多く、発病程度は平年より高かった。

(2)厳寒期の病勢進展は少ないが、現在の発生傾向が続くと考えられる。

対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除

が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

4) 黄化葉巻病

予 想 発生量：平年並(中央部)

根 拠

(1) 12月の調査では、発生面積は平年並、発病程度は平年よりもやや低かった。

(2) 厳寒期であり、本病の媒介虫であるタバココナジラミの増殖が緩慢になることや、野外から施設内への侵入がないことから、新たな発生は少ないものと考えられる。

対 策

(1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋却などにより処分する。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多(中央部)

根 拠

(1) 12月の調査では、発生面積は平年より多く、発生程度は平年並であった。

(2) 厳寒期は増殖が緩慢になることや、この時期、野外から施設内への侵入は無いため、発生は減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

(1) 本虫は主に上位展開葉に産卵するので、薬剤防除は上位葉を中心に実施する。また、粘着トラップの利用など、化学合成農薬以外の防除方法も取り入れる。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ (こうち農業ネット) <https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

① 病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報

② 病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報

③ 病害虫発生予察技術資料

④ 新しく問題となっている病害虫 etc.